

空飛ぶクルマ、ドローン

(代表事業者：NTTコミュニケーションズ、連携事業者：Volocopter、東京センチュリー、NTTアーバンソリューションズ)

本事業を通じて
目指す姿

都市部における人口密集に伴う交通渋滞や、少子高齢化に伴う交通サービスの減退等、**交通課題を解決する手段**として期待されている**空飛ぶクルマの社会実装**を目指します。

事業概要

- 次世代モビリティ「空飛ぶクルマ」の**社会実装**にむけて、**事業者及び利用者の観点で必要なプロセスを確認**しながら推進をしています。
- 事業者観点では**中央防波堤を中心に飛行ルート**の机上検討、**ドローンを活用した上空通信の電波測定**、**飛行に向けた申請プロセス等**を確認し、利用者観点では社会受容性向上を目的にした**機体展示イベント**を開催しました。また、2024年度では更なる取り組みを強化する目的で**都内上空の通信状況確認**、**総合的な体験型イベントの開催**、**首都圏向け市場ニーズ調査**などを実施しました。

これまでの取り組みと成果

年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
3か年の取り組み	空飛ぶクルマの飛行実証に際し、中央防波堤上空を前提とした飛行ルートの検討や関係機関との調整を実施しました。	ドローンを用い、検討した飛行ルートの上空電波測定を含む試験飛行を実施しました。また、社会受容性の向上を企図した国際フォーラムでの機体展示を実施しました	これまでの取り組みを踏まえ、事業者・利用者の観点で更なる施策強化 ①都内上空の通信状況確認 ②総合的な体験型イベントの開催 ③市場調査（大規模アンケート調査）

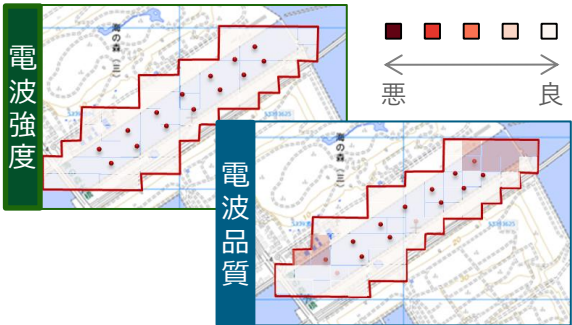


これまでの成果

- 中央防波堤エリアにおいて、机上検討およびドローンにてLTE上空電波の品質(電波強度・電波品質)良好であると確認しました。
- 2024年3月に国際フォーラムイベントにて試験機の展示を行い機運醸成を図るとともに、その際に実施したアンケートを通じ社会実装に向けた課題を明らかにしました。（空飛ぶクルマの認知拡大、安全性の訴求など）
- 総合的な体験型イベントの開催を通じて社会受容性向上を図るとともに、大規模ニーズ調査及び、都内上空の通信状況（LTE）の可視化を通じ、事業者・利用者の観点で課題抽出を行いました。



ドローン飛行実証
(飛行ルート)



ドローンでの電波実測結果



2024年度総合的な体験イベント
@国際フォーラム

空飛ぶクルマ
見よう、聴こう、乗ろう

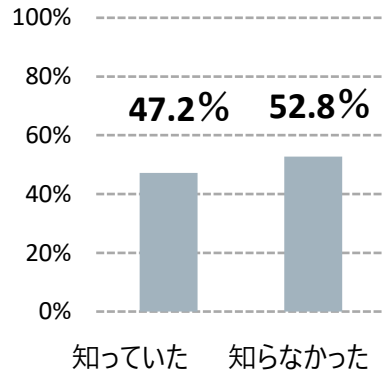
presented by
東京ベイe50プロジェクト 先行プロジェクト

<実施概要>

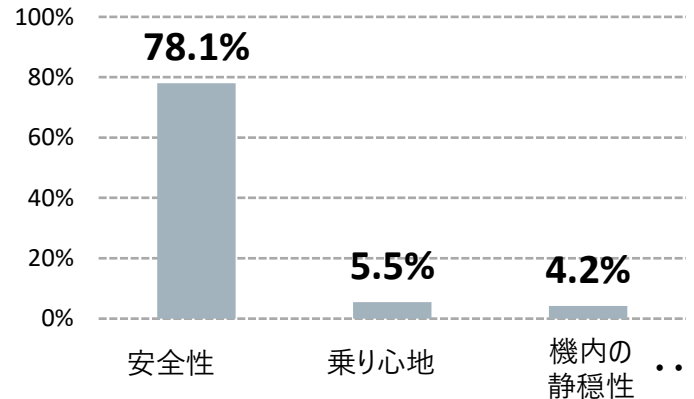
市場ニーズ調査
(大規模アンケート)

- 弊社顧客基盤（ドコモ会員さま）に空飛ぶクルマ関連について大規模アンケートを実施
- 設問数は20問・対象者は首都圏（1都4県）で実施
- **50,834人**から回答を受領

Q 空飛ぶクルマを知っていましたか。



Q 搭乗にむけて重要視することを教えてください。



Q 都内で希望する移動先を教えてください。

※回答抜粋であり代表例になります

都内の自宅から・・・

- ・羽田空港
- ・お台場
- ・スカイツリー
- ・鉄道主要駅（東京・新宿等）
- ・想像できない

総合的な体験型
イベントの開催
@東京国際フォーラム

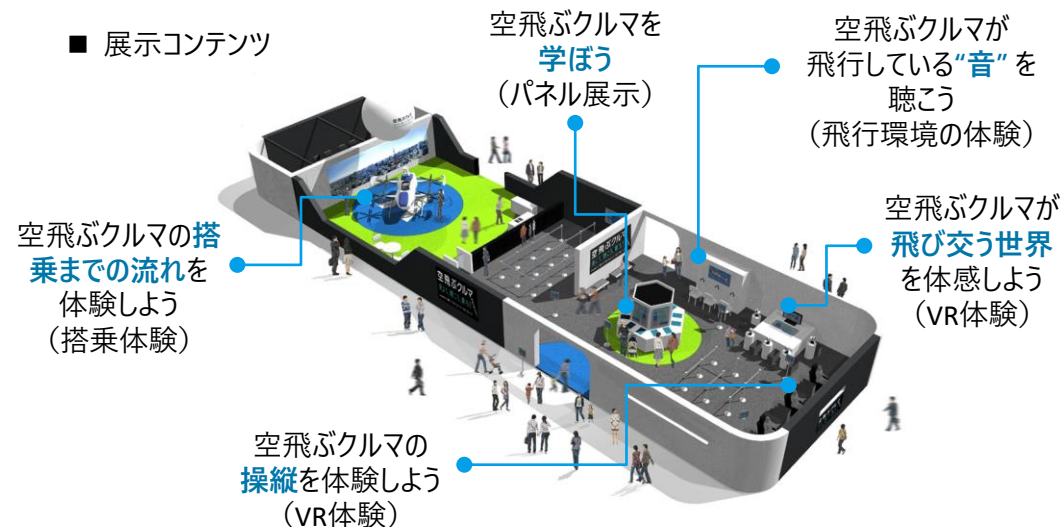
空飛ぶクルマ
見よう、聴こう、乗ろう

presented by
東京ベイeSG プロジェクト 先行プロジェクト

■ 開催概要

- ・ 2025年3月17日(月)～2025年3月24日(月)
- ・ 東京国際フォーラム ロビーギャラリー
- ・ 延べ来場者数：**6,215名**
- ・ 延べアンケート回答数：**1,047名**

■ 展示コンテンツ



現状の課題と本事業終了後のアクション

現状の課題

- 利用者における空飛ぶクルマ自体の“認知度”や“安全性”の浸透に向けて継続的な取り組みが必要。
(離発着のポートや飛行経路が未確定のため、空飛ぶクルマを身近に感じられる機会が少ない。)
- 事業者として空飛ぶクルマにおける求められる各種要件や、事業性を判断できる材料が現時点で少ない



本事業終了後のアクション

- 利用者観点では大規模アンケート結果等の分析を踏まえ、**効果的な施策・機会を増やします**
- **「空の移動革命実現に向けた東京都官民協議会」と連携し**、上空の通信要件・取りうる手段について多角的に検討し、飛行経路の検討含めて、安心・安全な空飛ぶクルマの社会実装を推進してきます。

今後のビジョン

- 2030年以降の本格的な社会実装を目指し、電波などの飛行環境面含めた実証等を立案し、**官民連携**して空飛ぶクルマの社会実装を推進していきます。

これまでの取り組みと成果に対する有識者からのコメント



eVTOLにも様々な種類があり、型式認証やそれに必要なデータ要件も異なるため、**多様なデータを収集**することが望ましい。
その上で**収集したデータに基づいて事業化につなげられるような調査**を実施していただきたい



一般聴衆向けに空飛ぶクルマ機体の展示を実施できたことは一つの成果として考える。今後も社会受容性を高める取り組みを進め、**空飛ぶクルマの概念自体の認知度を高めていく働きかけ**は望ましい